

小平市発達支援相談拠点検討に伴う団体ヒアリングまとめ

	小平地域精神保健福祉業務連絡会
日時	7月13日（水）午後1時30分～3時
参加人数	27名
発達障がい全般に対する意見	<p>①その人が乳幼児からどのように成長してきたかフォローするところがない。</p> <p>②病気を治すという観点でなく、いいところを伸ばす支援をしてほしい。</p> <p>③大人の発達障害の方を支援してほしい。</p> <p>④保育士の力をあげるとよい。</p> <p>⑤発達支援は学校保健との連携が課題。</p> <p>⑥就労のサポートが必要。</p>
拠点に対する意見	<p>①小平市障がい者団体連絡会としては、早期発見を重視しており、今回の相談拠点は子どもの発達支援の観点から検討してほしい。</p> <p>②親が統合失調症で、子どもが発達障がいというケースがあるが、親が相談に行けないので子どもがひとりで悩んでいる。こういう場合、学校への巡回相談があるとありがたい。</p> <p>③保護者支援は重要。</p>

	KASA(小平自閉症を考える会)
日時	9月14日(水)午前10時～12時5分
参加人数	8名
発達障がい全般に対する意見 (ランドデザイン)	<p>①発達に関する相談に来た人すべてに対応する場所であってほしい(原則としての18歳以下。対象外を作らない)</p> <p>②少なくとも市内の発達支援の全資源を把握し、保護者・支援者・他地域からの問合せに対し発達支援情報(内容・空き状況・手続き等)を公平に提供できること。(クラウド型)。提供される情報の収集・更新に権限と責任を持つことが必要。(ワンストップ窓口)</p> <p>③相談員の個人的知識ではなく共有のデータを使って相談者に最適な支援先を示す(情報の見える化)</p> <p>④今後の支援の道筋を示し(ソリューション)、利用し得る施設・サービスを提示・紹介(スーパーバイズ・コンシェルジュ)できる機能を持つこと。</p> <p>⑤連携(福祉・保健・子育て・教育・医療)には主軸が必要。今まで主軸がなかった。相談拠点が主軸になってほしい。</p>

拠点以外の行政の取り組み（基本計画）	<p>①小平市発達支援に関するHPをもっとわかりやすく。</p> <p>②教育委員会との連携の具体化。成人期の相談機関に繋がるまで途切れなく、重要度緊急度に応じて横断的に必要な支援ができるようにすること。</p> <p>③学齢期の福祉分野の空白を埋める。（保育所等訪問支援や言語訓練の年齢延長などを検討してほしい）</p> <p>④相談拠点をすることは発達支援の新しいシステム（仕組み）づくりである。利用者の意見を聞きながら小平モデルを作っていってほしい。（相談拠点運営協議会等の開催）</p>
拠点に対する意見（詳細計画）	<p>①電話相談・来室相談ができて、子連れで気軽に行ける場所。</p> <p>②集中支援。新規相談時に集中支援（週1×5）、集団でいい。その間にアセスメント。その後最適施設（既存）の通常支援（月1）へ。外来訓練は新規拡充。（学齢期のグループSST等、今ない支援を相談拠点が埋めてほしい。）</p> <p>③家族支援：情報提供、学習会開催、進路ナビゲーション。（教育委員会との連携必須）</p> <p>④公的資源のみならず民間施設や支援団体、クチコミ等の地域情報も集まる「情報ステーション」としての役割があると、対象者数の多い発達障害支援には有効。</p> <p>⑤情報、連携等語句の定義が支援者と利用者で違う。要注意。</p>

	手をつなぐ親の会
日時	9月15日(木)午後1時～2時50分
参加人数	6名
発達障がい全般に対する意見	<p>①親が子をどう成長させるかを考えるべき。</p> <p>②普通級で孤立している軽度障がいのこどもが一番つらい。</p> <p>③学校と療育機関とのつながりが希薄。</p>
拠点以外の行政の取り組み	<p>①こげら就学支援シートを書かない人がいる。</p> <p>②言語相談訓練中は、言語聴覚士が親の話を聴いてくれるが、小学生になるとつながりが切れてしまうので不安になる。</p>
拠点に対する意見	<p>①拠点は転入してきた人や出産後の人に「道筋を示してくれる」場所であるべき。</p> <p>②療育をしている時にも第三者的なアドバイスがほしい。</p> <p>③親支援がほしい。</p> <p>④学校の先生が情報を持っていれば心強いので先生の支援をしてほしい。</p> <p>⑤結果だけ言うのではなく、次に何をするのか方策を示してほしい。</p> <p>⑥親は相談する場所がほしい。</p> <p>⑦相談は、短時間でも良いので随時対応してほしい。</p>

	NPO 法人こども未来ラボ
日時	9月24日(土)午後2時～4時
参加人数	10名
発達障がい全般に対する意見	<p>①見た目では周りの理解を得られにくい発達障がいの子どもたちの抱える困りごとやその育て難さから育児に悩む母親たちをどのように支援していくか、が大きな課題となる。</p> <p>②発達障がいに関する理解やその支援の方向性をより確かなものとする検査法（WISC）は改訂を重ねられている。欧米の発達障がいについての研究成果によって新しい情報が加えられ更新されることから冊子を作ることには難しい側面がある。（冊子の改訂版の発行を余儀なくされる）</p>
拠点以外の行政の取り組み	<p>①詳細なホームページも必要だが、冊子作りも必要。</p> <p>②冊子を作り、市民全員に配ってはどうか。</p> <p>③専門性のある発達支援についての冊子の作成は困難。</p> <p>④都の発行しているハンドブックの小平版があればよい。</p> <p>⑤保護者としては、行政や支援者が持っている情報を教えてほしい。</p> <p>⑥葛飾区では、毎年1回各家庭に文書を出し、早期発見に努めている。</p> <p>⑦学校の特別支援コーディネーターが認知されていない。</p> <p>⑧個別支援計画を担当の先生から見せてもらっていない。</p> <p>⑨こげら就学支援シートについて毎年更新し、中学まで使用できるようにしてほしい。</p> <p>⑩こげら就学支援シートを担当の先生が十分活用していないのではないか。</p> <p>⑪保健師により持っている情報にバラつきがある。</p> <p>⑫巡回相談で、発達に気が付いたら直ぐに教えてほしい。</p> <p>⑬言語相談訓練の先生にこげら支援シートを詳しく書いてもらったことから、通級では先生がよく見ている。</p>
拠点に対する意見	<p>①拠点に保護者が相談に行った時、発達障がいに関するガイドブックがあるといい。</p>